

2022年4月25日第80回運輸政策セミナー

「地域づくりの新たな潮流」～100年後の地域を創る観光の在り方を考える 宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所 会長の宿利正史です。

本日も、ご多用の中大変多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日の運輸政策セミナーでは、「地域づくりの新たな潮流」をご紹介しつつ、日本にとって切実で重要なテーマであるこれからの地域づくりについて、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

日本は今日、人口減少、少子高齢化、経済の低迷、脆弱な地域交通、地域コミュニティの衰退など、地域においてさまざまな課題を抱え、地域社会の存続すら危ぶまれる状況が現実化しつつあります。長期に及ぶコロナ禍はこのような状況を悪化・加速させました。

このため、地域の魅力を向上させることによって、地域の持続化、活性化を図る、「住んでよし訪れてよし」の地域づくりが、ますます重要になると考えています。

そのような中、地域を蘇らせたい、活性化したいという強い思いをお持ちの個人による、センスの光る際立った取り組みが行われるようになってきております。地域を変え、新たな地域の魅力を創出している事例が、日本の中で登場しつつあります。

本日は、そのような取り組みを行っておられる3名の皆様、

- ・ 富山県東岩瀬地区 榎田酒蔵店代表取締役の榎田隆一郎様、
- ・ 山形県庄内地区 ヤマガタデザイン代表取締役の山中大介様、
- ・ 長野県南木曾町 Zen Resorts 代表取締役の岡部統行様、

からまずご講演をいただきます。その後、今月から当研究所の客員研究員に就任した三重野真代 東京大学公共政策大学院特任准教授による進行で、お三方の鼎談を行うこととしております。

地域の社会、経済、文化、環境といったいずれの側面においても持続可能となっているかを問い続けながら、10年後、20年後といった短いスパンではなく、100年後も住み続けられる、住み続けたい場としての「地域のなりたい姿」を、どのようにデザインしていくのか？

ご登壇いただく3名の皆様には、限られた時間ではありますが、それぞれの具体的な取り組みやその背景、地域づくりにかける思いを存分に語っていただき、質の高い新たな地域間交流や観光のあり方、また、このような取り組みを通じた持続可能な地域づくり・地域経営のあり方、さらに、日本の将来を確かなものとするために私たちがなすべきこと、を考えるための手掛かりや展望を得ることができれば、と考えています。

一言付言しますと、本日のセミナーは、昨年私から梶田さんにご登壇をお願いし、ご快諾をいただいたところから企画がスタートし、以後お知恵をお借りしつつ今日を迎えました。

きっかけは、一昨年、2020年11月に、東京大学大学院の私の授業「地域交通政策研究」を、「LRTの導入とコンパクトシティ」というテーマで富山市で行った折に、梶田さんのご厚意により、学生、教師30名ほどを、LRT「富山ライトレール」の起点である岩瀬地区のまちづくりの現場で熱心にご案内いただき、さらに、学生たちに対してご自身が造られ熟成させた希少な日本酒の試飲の機会まで与えていただいたことです。

その折に学生たちや私が実感した梶田さんの熱い思いやメッセージを、本日開催する当研究所のセミナーを通じて、広く多くの皆様に知っていただきたいと思って開催するものです。

最後に、このセミナーが、ご参加いただきました皆様にとりまして真に有益なものとなることを期待して、冒頭の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。

(以上)